

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況と今後の改善策	評価	学校関係者評価 者による意見
1 (教師力を組織的な学校運営を高める)	①気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をする。	運営委員会	【努力指標】 管理職、校務分掌、学年での「報告・連絡・相談」を密にし、協力して課題解決に対応している。	【教職員アンケート】 気づきを大切に、的確な「報告・連絡・相談」をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教100%】 学校経営ビジョンの具現化に向け、主任層のリーダーシップのもと、各分掌と学年の組織的な連携が十分に図られている。今後も、様々な事象への情報共有と対応への共通理解を充分にする。また、常に課題意識を持ち、周囲に伝えながらよりよい学校づくりへの参画意識を高めていく。	A	時間外勤務時間の短縮について、家庭に対応していただくべきことを、学校としてははっきりと主張していくべきである。ChromebookやC4thを効果的に活用することで、生徒と向き合う時間の確保につながる。
	②働き方の見直しを進める。	運営委員会	【努力指標】 時間外勤務時間の短縮を目指している。仕事が平準化されている。月2回の以上の「定時退校日」が設定されている。	【時間外勤務時間調査】 時間外勤務時間が月80時間を超えないように勤務している。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上	【4-7月:84.5%】【9-12月:98%】 ICT機器やスクールサポートスタッフ等を有効活用し、効率的な業務の遂行に努めてきた。また、各種の取組において、目的を明確にし、内容の充実とスリム化の両立を図ってきた。今後も、早めの計画・立案を心がけ、各教員が計画的に勤務時間を調整できるようにしていきたい。	B	オンラインであることの良さについても見つけ直し、生徒指導アンケートやQUアンケートを効果的に活用して、親和的な集団づくりに努めてほしい。
	③重点課題の解決のために「親和的な集団」をつくる。	生徒指導	【努力指標】 生徒と向き合う時間を確保し、「親和的な集団」づくりを目指している。	【教職員アンケート】 重点課題の解決のために「親和的な集団」をつくることを大切にしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教96.4%】 学級・学年・部活動それぞれの集団の中で規律やルールを徹底し、認め合う、助け合う、励まし合う、そしてひいては一人一人が安心して過ごすことができる学級や学年、学校を作ることを職員全体で共通理解を図り、目指してきた。肯定的な回答が前回と同様の96.5%となっているが、「そう思う」の回答率が25%高くなっている。ICT機器の有効な活用等で、業務のスリム化が推進され、「生徒と向き合う物理的な時間の確保」が実現しているのだからと思われる。とはいえ、未だ「どちらかといえばそう思う」の回答率が42.9%となっているので、業務のスリム化をさらに進め、生徒と向き合う時間を確保できるようにしていきたい。	A	
2 (自ら進んで学ぶ生徒)	①わかる・できる授業を展開する。	研究	【満足度指標】 学力向上のための方策として、授業改善や授業規律の確立、9年間を見通した学習指導の徹底を行い、「根っ中授業スタイル」の充実を図る。	【授業アンケート】(研究部) 授業はわかりやすいか。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 わかる・できる授業を展開できた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生95.3%、教96.4%】 根っ中授業スタイルを軸に今年度の重点目標の一つである「明確な課題設定」、ゴールを明確にした「課題とまとめの整合性」、これらを意識した授業づくりがこの数値につながっていると考えられる。どの学年においても高い数値を出している。今後もこの現状に満足することなく、授業構想をしっかりと立て、生徒に寄り添う、わかりやすい授業を追求していきたい。	A	根っ中授業スタイルが効果的に機能しているかをより具体的に分析し、教師のどのような手立てがプラスにはやられているのかを追究してみたい。GIGAの推進を学力の定着にもつなげていくことができるよう、活用場面の絞り込みや効果的活用について学びを深めていってほしい。
	②基礎・基本を定着させる。	研究	【成果指標】 基礎・基本を定着することで、わかる・できる授業の基盤とする。	【生徒アンケート】 基礎・基本の定着ができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 基礎・基本の定着に取り組んだ。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生87.5%、教100%】 基礎・基本の定着は定期テストや、確認・実力テストの結果、アンケート結果からその数値の上昇は見られるが、教師と生徒の中での取り組み内容に対する定着率の差があることがうかがえる。教師は適用題などの振り返り、押さえる時間を十分にとっているように感じていたが、生徒にとってはまだ不十分であることがデータからうかがえる。今後はさらに授業におけるタイムマネジメント、家庭での提出課題に意識をおき、授業内容を定着させることで、生徒の数値を90%以上にしていきたい。	B	オンライン授業を活用する場面もあつたが、事前の入念な準備があつたため滞りなく実施することができた。今後もあらゆる事態を想定して準備を続けていってほしい。
	③端末を含めたICT環境を活用し、個に応じた指導を充実させる。	研究	【満足度指標】 生徒が自分の考えを持ったり、考えを深めたりするために、ICT環境を活用することで、個に応じた指導を充実させる。	【生徒アンケート】 先生はICT機器を利用して個に応じた指導をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ICT環境を利用して個に応じた指導を充実できた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生90.7%、教58.6%】 今学期は授業内での活動等にICT機器を積極的に使用したことによって生徒もかなり慣れた。今後は「使ってみる」から「より効果的に使う」にシフトチェンジしていきたい。ICT、ノート、話し合い活動、これらの3点を内容に応じて使い分けることでより効果的なICTの活用につなげていきたいと考えている。また、今学期はオンライン授業にも取り組んだ。各家庭でのWi-Fiの強さに差があつたり、生徒の様子を十分に把握できない中で授業展開に教師側が慣れないなど改善点が見つかったため、今後に向けて改善していきたい。	B	
3 (明るく素直に振舞う生徒)	①生徒指導・教育相談を充実させる。	生徒指導	【努力指標】【成果指標】 生徒指導や教育相談を充実させることで、年間の事案件数を減らす。	【生徒指導データ】 生徒指導事案(暴力・いじめ等)の発見と解決。 A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 70%以上 【教育相談データ】 新たな不登校及び不登校傾向の生徒をつくらない。	【いじめ認知件数8件、うち解消7件】 週1回の管理職と生徒指導担当者間での情報交換と教育相談会を通して、各学年及び個々の生徒の状況について、情報を共有し、今後の対応策や、トラブルを未然に防止するための方策などについて、話し合ってきた。また、chromebookを使っての月1回のいじめアンケートや、QU調査後のヘルプシグナルのチェックや個人面談も引き続き継続し、さらなるトラブルの早期発見、早期解決、ひいては未然防止につなげていきたい。	B	新型コロナウイルスの影響で、学校外での体験的な学習活動が制限されている中、松松レジャーをはじめとした地域学習を継続できたことには大きな意味がある。
	②特別の教科道徳を大切に育てる。	教務・研究	【努力指標】 特別な教科道徳で学んだことを全教育課程で展開する。	【生徒アンケート】 道徳の授業から学ぶことは多い。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 道徳の授業の充実が図ることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 ※生徒Aと教職員Aで「A」とする。	【生88.6%、教76.5%】 道徳の授業を振り返る中で、他者の考えから学ぶことが多いと考える生徒が多いことから、2学期はより学び合い活動に工夫を凝らすことができた。さらに、来年度に道徳ノートの導入を目指し、ワークシートを簡易的な冊子にして試験的に実施したところ、考えの変容がわかり、生徒にとっても充実したものとなった。ノートの様式については、吟味していく必要がある。今後は、総合的な学習との兼ね合いも考えながら、次年度の計画を立てていく。	C	オンラインを活用しての各種講演会等を工夫して実施したことで、学びを止めない努力を行ったことは、来年度に実践に確実につながる。能美市の重要な施策となっているSDGsの視点をさらに充実させ、3年間の学びの系統性も意識しながら学習活動を積み重ねていってほしい。
	③郷土を愛する心を育成する。	教務・研究	【満足度指標】 地域と連携したキャリア教育やふるさと教育が計画的・効果的に行われている。	【教職員アンケート】 総合的な学習の時間等を活用しながら、郷土を愛する心を育成することができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【生徒アンケート】 「根上が好きか？能美市が好きか？」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【教96.4%】【生 根上:84.9%、能美:87.0%】 松松レジャーの活動は1・2年生で実施した。能美市に対する愛着という視点では、3年生で数値が向上した。3年生では、SDGsの視点を軸に学習を進めた。立山へのバス遠足や租税教室などにおいてもSDGsの視点を明確にして実施したこともあり、SDGsが効果的な手段となり生徒と地域をつなぐ役割を果たしたと考えられる。来年度は全学年の総合的な学習の中で、SDGsの視点や地域のリソースを活用した体験学習等を効果的に位置付け、キャリア教育・ふるさと教育のさらなる推進を目指す。	B	
4 (強い身体をもつ生徒)	①基礎体力を向上させる。	保健体育	【努力指標】 教科体育の充実や適正な部活動運営を通して、基礎体力の向上を図る。	【体力テスト】 体力テストの結果において、本校結果が県平均を上回っている種目数。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【体力テスト 52.0%】 2学期保健体育授業内で、体力テストの結果から、学校全体としての課題共有を行うとともに、自己の体力を分析した。それを受けて、授業導入時に2分間サーキットトレーニングに取り組んだ。トレーニングメニューは自己の課題に合わせて行われるよう指導し、2・3学期間、継続した取り組みとして行っている。	D	新型コロナウイルスの影響を少なからず受けていると考えられるが、感染症対策と両立しながら生徒の健康や体力の増進に引き続き努めていってほしい。
	②健康教育を充実させる。	保健環境	【満足度指標】 「早起き」「朝ごはん」を基盤として、歯科検診や視力検査の結果を含め、年間を通して自分の健康について考えることができる。	【生徒アンケート】 「早起きができて」「朝ごはんを食べている」ができています。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保健調査】 ・歯科検診、視力検査の受診状況。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生 早起き:73.9%、朝食:94.9%】 【保健調査:歯科検診 21.8% 視力検査 25.9%】 生徒アンケートより、基本的な生活習慣が確立している生徒がほとんどである。8時10分の始業に間に合う生徒は多く、生活の基盤は安定していると思われる。しかし、朝食摂取も睡眠リズムも改善の余地があり、集団指導・個別指導の充実を図る。保健調査より、健康診断後の受診率がとても低い。コロナ禍ではあるが、状況を見て受診するよう働きかけていく。生徒には関係職員と連携して受診の必要性を説明し、保護者にも協力を仰ぐ。	C	マスクを着用しながらの練習では、トレーニング強度の調整や休憩時間の十分な確保などを意識してほしい。
5 (コミュニティ・地域との連携)	①学校運営協議会を機能させる。	教務	【満足度指標】 学校運営協議会を中心に、コミュニティスクール(CS)としての機能を推進し、家庭・地域との連携を図る。	【保護者アンケート】 コミュニティスクール(CS)を知っている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【教職員アンケート】 ・学校教育にコミュニティスクール(CS)としての機能を取り入れることができた。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【保26.8%、教82.2%】 中間評価と比較すると、保護者アンケートで+6.1ポイント、教職員アンケートで+17.9ポイントとなった。学校だよりやホームページでの発信が効果的であったと考えられる。教職員間では、学校運営協議会で話題になった内容をダイジェスト版の文書で共有した。参加者以外の教職員が学校運営協議会についてより深く知ることができた。地域、保護者、学校がどのようにつながり合っているか、生徒の成長に貢献していくかを俯瞰的な視点で捉える場として、学校運営協議会の果たす役割は大きい。今後も協議内容を幅広く発信していきたい。	C	CSについては、学校運営協議会の活動について内容等を引き続き発信していく。
	②適切な情報公開と社会貢献を展開する。	教務	【成果指標】 ホームページ(HP)を充実させ、学校教育活動に対する家庭・地域からの理解を得るよう努める。 【努力指標】 学校教育活動全体を通して、「働く子」の育成を図る。	【生徒アンケート】 「そうじをしている」「あいさつができる」の結果。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【保護者アンケート】 ・全家庭で週2回程度の視聴をしている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	【生 掃除:94.3%、あいさつ:86.0%】【保4.8%】 「働く子」という視点では、掃除・あいさつともにスコアが向上した。掃除では当番清掃を導入したことで、より責任感をもって掃除に取り組むことができるようになった。あいさつでは、生徒会主催のあいさつ運動、外部から参加して下さる方々の協力もあり、引き続き成果をあげている。HPの視聴頻度については+0.5ポイントにとどまった。更新頻度は増えたものの、クリックするまでのハードルが高いと考えられる。来年度からは一部文書のデータ化や保護者メールとの連携を検討する。また、アンケートの文言も実態に合う形で精査する。	C	保護者や地域への情報発信については、どのような方法が効果的なのかを検討してみよう。